

(案)

北九州市立美術館運営
5 力年計画
(平成 3 0 ~ 3 4 (2018~2022) 年度)

平成 3 0 年 4 月
北九州市立美術館

北九州市立美術館は、開館以来「地方美術館としてユニークな美術作品を収集する」、「市民に密着したリビング・ミュージアムを目指す」という基本方針に基づいて運営してきた。その基本的考え方は、現在でも変わらないものであり、今後も継承すべきものである。

平成22年3月には、この基本方針を市民によりわかりやすいものにするとともに、地域文化の振興に貢献する市民のための美術館を目指して、あらためて基本理念と基本方針を記した『これからの市立美術館について』を策定し、美術館活動を展開している。

そうした中、開館から40年以上を経過した本館は、開館以来最大規模の修繕工事のため、平成27年9月より長期休館に入った。そして平成29年6月19日に竣工、同年11月3日にリニューアル・オープンを果たし、新たな一步を踏み出した。

本計画は、このリニューアル・オープンを契機に、あらためて今後5カ年で当館が取り組む施策をまとめたものである。

1 作品 ～資料収集・環境管理・保存～

(1) 収集活動の継続

開館以来の収集方針や所蔵内容を踏襲しながら、持続可能な収集活動を目指す。収集対象は、下記の分野に重点を置く。

- 現代の多様性を示す優れた作品
- 地域の美術史を構築する上で欠かせない作品
- 近現代美術史の展開をたどる既存コレクションの充実・補完

(2) 作品修復、作品保管環境の整備

所蔵作品・資料の管理に必要な保管環境を整備し、必要に応じて作品修復を行う。

(3) 美術資料・図書の一括管理

当館所蔵の作品及び図書データベースを整備し、開館 50 周年となる 2024 年の一般公開を目指す。

2 公開 ～調査研究・展覧会～

(1) 新鋭作家の継続的な紹介と評価

企画展や guest room を通じ、新収蔵や研究発表を見据えた新鋭作家の調査を行う。

(2) 所蔵作家のアーカイヴ整備、研究論文・口頭発表

所蔵作家に関するアーカイヴの整備、研究論文、口頭発表等を行う。

(3) 特色ある展覧会（コレクション展・自主企画展）の実現

調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。

(4) 他館や他機関と共同企画の実施

他館、他機関と協同し、連携企画展や共同調査を行う。

3 交流 ～教育普及・地域交流～

(1) 学校と連携した学習プログラムの実施

教育現場や教育委員会と連携し、小中学生等が美術に触れ、楽しむ機会を広げる事業を実施する。

(2) 特色あるワークショップ・講演会の実現

子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。

また、複数年にわたり継続した市民参加型のアート・プロジェクトを実施する。

(3) ボランティア組織の充実

現代の社会状況に対応した、独自の自立型のボランティア制度を構築する。

(4) 他館や他機関との連携

他館、他機関との連携を促進し、同時に連携の内容を工夫する。

4 広報 ～利用促進のための情報発信～

(1) 現代社会に対応したマーケティング、広報戦略

展覧会等の傾向や予想される観客層などを分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。

また、外国人向けの広報も充実させる。

(2) 他館や他機関との連携

来館促進のための連携先の確保と、連携の内容を工夫する。

また、美術館友の会の活用を図る。

5 環境 ～快適なアメニティ空間の演出～

(1) ミュージアム機能・設備の強化

美術館内外の環境について、館の安全確保と適正管理に努める。

また、ホスピタリティマインドの向上に努め、市民に開かれた美術館を目指す。

加えて、老朽化が進んでいるアネックス棟の整備計画の検討を行う。